

私たちの会ルール

南花田支部

いつも楽しい声ひびく

薬局とクリニックに感謝

南花田支部のたまり場は、前の診療所の時代から始まりました。友の会の会員さんと一緒に春は4月の桜、5月は力キツバタの花見、お弁当作り、世話人会議、健康祭りなど、皆さんが集まる所となりました。それから「ヒマワリ薬局」の2階を私たちが自由に使用できるようにしていただきました。その時からパッチワークや干支作り、

内科学習会や糖尿病・高血圧などの食事作り、月1回のケーキ作りなど楽しいことがあれこれ思い出されま。今の場所になってパッチワークの人数が出て3班に分かれてするほどです。毎週にぎやかにやっています。月1回のバザーも楽しみの一つです。

南花田支部はとても恵まれていると思います。他の支部の方々のような苦労はなかったぶん、薬局とファミリークリニックに感謝しています。これからも、色々何かしたいと思う方々の力になれば幸いです。

今、取り組んでいるのはこのバッグ



ヒマワリ薬局の職員さんファミリークリニックの職員さん、世話人さん会員の皆さん今後ともよろしくお願いたします。
(中井眞砂代)



人気のパッチワークサークル、写真は初心者コース



3月の世話人会の様子

お楽しみクイズ

クロスワードパズル

●応募方法／郵便ハガキにクイズの答え・住所・氏名・年齢・電話番号・友の会に対するご意見等を記入の上、
●あて先／〒590010824 堺市堺区老松町2丁58-1
●友の会事務局「お楽しみクイズ」係あてにて郵送ください。
●しめきり／2015年5月13日(水)消印有効
●当選発表／厳正なる抽選の上、10人のかたに賞品(図書カード5000円分)を、賞品の発送をもって発表に替えてさせていただきます。
●クロスワードパズル解答はがきに書かれた「ご意見」は、紙面に掲載させていただきます。

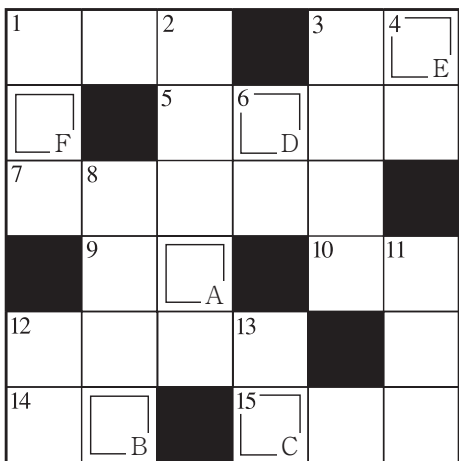
タテのキー

- ① 漆塗りの器
- ② 学校で授業を行う部屋
- ③ 猫。――フード
- ④ 捨てる○○あれば拾う
- ⑤ ○○あり
- ⑥ ○○○ぱり、○○悪
- ⑦ ○○○ち
- ⑧ ○○○ち
- ⑨ 近眼
- ⑩ 食事の○○に手を洗う
- ⑪ なくて七○○
- ⑫ 休みの日
- ⑬ 土用の○○の日
- ⑭ 催し物の○○、○○を明記
- ⑮ 奇術。――ショー
- ⑯ ○○○は異なるもの味なも
- ⑰ 人の――に関わる安全問題

ヨコのキー

- ① 採用、――購入、――開店
- ② 液体から気体に変わる
- ③ タヤみ。――が迫る
- ④ 土用の○○の日
- ⑤ 催し物の○○、○○を明記
- ⑥ 奇術。――ショー
- ⑦ ○○○は異なるもの味なも
- ⑧ 人の――に関わる安全問題

カギを解き、二重ワクに入る文字をABC順に並べてできる言葉は何?



●2月号の答「フキノトウ(ふきのとう)」
●応募数/98通

川柳

安倍総理 何が怖いか 翁長知事(面談せず)
『京都』 思う そんなにええか 大阪都 長谷川良雄(西区上野芝町)

俳句

戦跡めぐり 熱燗恋し なごり雪 堺谷 肇夫(南区桃山台)
三月の みかんを歯めば ほろ苦し 吉崎みどり(和泉市上町)
*枯草の匂いにも懐かしい味。近頃のみかんを今年もたくさんいただいた。
*みかん農家の納屋は今頃は広々かしら。

*お寄せいただく句を詠む時の情景や思いもお寄せください。
*俳句・短歌・川柳の次回締め切りは、2015年5月13日(水)です。
*特に、俳句・短歌のご応募お待ちしております。

会員さん紹介

深井支部

中田 鉄さん



4月号から新企画として「会員さん紹介」をスタートします。地域で様々な分野において活躍されている会員さん、より多くの会員さんに知っていただきたいと思っています。第一回目は中田鉄さんを紹介いたします。

私は大正15年生まれ、89歳です。軍国主義教育で育った私は17歳で海軍志願兵として海軍生活を送り、海軍通信学校卒業のときは懐中時計を受賞しました。昭和20年8月15日、日本が敗戦。復員の途中、燈火管制のない夜の瀬戸内海で、民家のあかりが海面にゆれる平和な光景が心に焼きつき、その後の私の「平和憲法を守る」信念となりました。

昭和30年結婚、同年耳原健康を守る会・耳原病院に就職、日常業務とあわせ昭和33年頃から堺臨海工業地帯の造成と大気汚染に対する公害反対運動、65歳からの老人医療費無料化の運動、原爆反対・平和運動などに参加し写真を撮り続けました。これらの記録は平成16年に「写真集・喜の回顧」として発刊しました。昭和63年、堺の部落解放運動史「歴史のとびらをひらく」の執筆のため33年間勤めた耳原総合病院を退職しました。今は「とも」の配達と大浜支部はまかせに写真・文を連載中、少しでも役に立てば幸いです。



和歌山県湯浅町の廣川で行われる「シロウオ四ツ手網漁」は紀州路に春を告げる風物詩です
写真・文 中田鉄

編集後記

東西、鳳支部のたまり場がオープンしました。支部活動の拠点として、さらなる飛躍が期待されます。

『反貧困』の著者である湯浅誠さんは、今の日本社

会は「溜め」がないと本の中で言われています。人間関係が希薄で、いざという時に頼れる人がいない、その結果孤独死などが増えている。みなさんたまり場に遊びに来て下さい。多くの人と繋がるのが「溜め」になります。(上村)